

令和5年度 福井県立南越特別支援学校 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
- ・その他

(意見を聞いた方)

開かれた学校づくり検討委員

外部委員(仁愛大学准教授、事業所代表)2名、PTA代表(会長、副会長)3名

卒業生の会代表1名

(意見欄)

○学習支援

- ・各学部ごと年間を通して定期的に行われた研修会や研究会、各学部ごとに行われた外部講師を招いての研究会等により、教員の指導力の向上や授業の充実に繋がっている。
- ・年度初めの児童生徒の移行支援を十分に行ってほしい。

○生活支援・安全支援

- ・子どもたちが他学部の活動の様子を見る機会を増やしていくことは大切だと思われる。
- ・次年度も学校行事等において、子どもたちが明るく元気に活動し、日ごろの学習の成果を発表できるように計画、運営を行えるとよい。

○進路指導

- ・座談会において保護者同士が率直に意見交換したり、情報を共有したりすることができたことは有意義であったと思う。
- ・今後は、以前行っていたような地域を交えた相談会が実施できるとよい。

○地域支援

- ・コロナが5類に移行し、学校間交流や居住地校交流などで直接交流ができ、有意義であった。
- ・地域とつながることができる活動を行えたこともよい。

○組織運営

- ・各学部、校務部で少しの時間を活用して会議を行うのは有意義であると思う。
- ・自由参加の研修に9割以上の教員が参加したのは、学ぼうとする意欲が感じられる。

○全体(総括)

- ・教職員の意見の中で、教員の人手不足を感じるため、ぜひ補助の人などの配慮を要望してほしい。
- ・教師間の学びは大切であるため、情報を得ながら、いろいろな立場から協力していく体制を作ってほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

今年度の成果を踏まえ、次年度は、多様性を尊重し、支え、つながることを意識しながら取り組みたい。具体的には、学習支援においては、児童生徒の見取りや記録を大切にしながら授業研究会を充実させ、授業づくりのPDCAに十分に生かされるようにしていきたい。生活支援・安全支援においては、学部間の交流の場を設けてつながりを意識できるようにし、進路支援においては、ニーズに応じた情報提供の充実を目指したい。また、地域支援においては、無理のない形で地域とのつながりを持てるような活動をしていきたい。組織運営としては、「学校や子どもたちのために」を前提に、誰もが安心して自分の意見を述べたり、他者の意見を傾聴したりすることができるように、会議の進め方を工夫したい。また、教職員一人ひとりが自分事として、学校教育目標の達成を意識できるようにしたい。